

連載：原点

「初任者として」

市川工業高等学校 見澤 真悟

はじめに

大学卒業を控えた3月、旅行先の京都にて市川工業高等学校(以下、市工)から連絡を頂きました。正直に言うと、工業高校に赴任するとは考えておらず、不安でいっぱいであり、気が気でない旅行になったことを覚えています。やってやる、という気持ちとともに、数ヶ月前までは大学生生活を満喫していた自分がいきなり教員になっていいのだろうか、やっていけるのだろうか、と不安になることもありました。そのような不安から始まった私の教員生活、まだ5ヶ月しか経っていませんが、振り返ってみたいと思います。

スタートライン

私は中学生の頃から教師になりたいとずっと思っていました。この夢は一度も変わることなく、自分の学ぶ意味になっていました。その夢のために大学受験も頑張れましたし、教員採用試験にも本気で取り組むことができたのだと思います。合格通知が届いたとき、嬉しくてすぐに大学に報告に行きました。当時の自分にとっては、教員採用試験に合格することがゴールだったのかもしれませんが。教授達も喜んでくれましたが、それと同時に、「ここで満足するな、ここがスタートラインだ」と気づかせてくれました。そして4月、私は高校教諭としてスタートすることができました。

市工生

今まで数学に対して苦手意識をもったことのない自分にとって、生徒の数学に対する嫌悪感には驚きます。嫌いだから中学校でも勉強しなかった、数学の授業は受けたくない、という姿勢の生徒がいます。その生徒達は問題を解く能力が低く、解を導くことができません。しかし彼らはわからないことははっきりと「わからない」と発言し、解がわからなくても答えようとします。市工生の良いところは、そのはっきりとした元気さであると思います。そこで私は、彼らの発言をうまく生かすことができるようになりたいと考えています。わからない、と言われたらどの説明がわからないかを聞き、よりよい指導法を考え、生徒の何気ない発言を無駄にしないようにしていきたいです。

自由

講師経験のない私にとって、授業をすることは教育実習以来であり、常に戸惑うことばかりです。なぜそのような考え方が出てくるのか、なぜ前時の内容を忘れてしまうのか、四苦八苦しながら授業をしています。そんなとき先輩の先生方は助言をしてくれますが、それとともに「色々で自由にやってみろ」と言ってくれます。その言葉があるからこそ、今自分は色々なチャレンジをすることができているのだと思います。当然自由に授業を任せられたからには、いつも以上にしっかりとした教材研究をしなくてはなりません。自分のしてみたい授業を考えているとき、それは苦ではありません。しかしこちらの努力とは裏腹に、生徒の反応は様々です。じっくり考えた授業であっても効果的ではなかったり、ふとした発言がよい説明につながったり。そこが人間相手の職業の面白いところであり、難しいところだと日々感じています。

初任者としての思いを大切に、まずは一年間しっかりと過ごしていきたいです。そして長い教員生活において、生徒とともに日々学び続け、教育者として千葉県の教育に役立ちたいと思います。

「夢を確立するまで」

市原高等学校 加藤 由希子

小学校までの私は、算数を不得意と考えていました。式の立て方がこれでいいのかわからない、途中式が解けないといった具合でした。

では『なんで、いま数学の先生に就いたのですか?』と問われたら、厳しくも、優しくほめてくださった先生との出会いがあったから。いま数学の先生になることが出来たのは、中学校1年生の頃に教えていただいた先生のおかげです。

その先生は、当時数学を不得意とする私に「もっと自信を持って解きなさい。」「おまえはできる。」という励ましをいつもしてくれていました。その言葉が、数学への意識を変えてくれたのだと思います。

また、その先生のおかげで、こんな先生になりたいという将来の夢を持ち、高校教師として実現させることも出来ました。中学校で夢を持ち、それを実現出来たことは、とても幸運なことだと思います。

市原高校に着任して半年が経ちました。数学を苦手と捉えている生徒はたくさんいます。生徒たちの姿を見ていると、小学校時代、曖昧な感覚で算数を捉えていた自分自身と重なる部分が多々あります。しかし、教師の目で生徒のノートを覗いてみると、こんなにできているのになあと不思議に思うことも多くあります。みんな少しのつまずきで数学を苦手科目と認識してしまっているのではないかと考えます。

まだまだ私自身数学の楽しさ・不思議さを上手に伝えられずに悩んでいる日々です。しかし、中学校の頃に出会った先生のように、数学の楽しさを知り、自分自身に自信を持つことができる生徒を一人でも多く育てることができるよう目標を持ち、日々精進していきたいです。また夢を与えてくださった先生に感謝し、私自身も子どもたちが将来に希望を持ち、夢を持ち、実現できるようサポートする教師になっていきたいと思っています。